

「一人ひとりの声を形にする」 JR西労組運動の魅力が発信しよう

2019年10月14日(月)〜15日(火)、米子ワシントンホテルプラザに於いて、JR西労組中央本部青年女性委員会第29回定期委員会が開催された。中央常任委員17名、委員72名が出席した。冒頭、新倉委員長は、挨拶の中で、「JR西労組の青年女性委員会が日本一である」と述べた。その思いを受け、「安全」「青女活動」「組織」「女性の働き方」など、22人から43項目について、活発な質疑がなされた。総括答弁で鶴石事務局長が、「青女で一番大切なことは、多くの人が関わられる機会を設け、多くの組合員に参加してもらい、『楽しかった』『来てよかった』と感じていただくことであると締め括った。活動方針など、満場一致で採択され、鶴石新委員長による新体制が発足し、第29回定期委員会が閉幕した。



今委員会をもって退任される新倉委員長(左)からバトンをしっかりと託された鶴石新委員長(右)の下、新体制が発足した

全体質疑

JR西労組の魅力を支える全員加入へ

濱村 祐介(米子地本)
●JR西労組への加入行動で、基本組織と共にJR西労

組の魅力を伝え、説明することで全員加入を果たすことができた。しかし、浜田駅への配属がなく、職場の活性化に繋がらず、本部から本社に伝えたい。

他労組のビラを受取るだけなら?

小田 貴生(和歌山地本)
●人間ドックについて、引き続き30歳に拘って闘っていたきたい。

●他労組のビラを受取るだけなら問題ないと考えている若い組合員が多い。本当に他労組の本質を理解しているのか不安になる。本部からアドバイスをいただきたい。

常任委員間でも活動に温度差

井川 剛暢(本社・総支部)
●まだまだ総合職の参加率が低い。常任委員間でも活動に温度差があり、引き続きのフォローをお願いしたい。

離職を考えている組合員へ

高杉 恭平(福岡地本)
●青女は結婚・出産・育児の時

間的に余裕がない人が多く、一部の役員に負担が集中する。●離職を考えている若い組合員を止めることができない。何か良いアドバイスはないか。●来年度のユースステイでは、福岡の魅力を伝えるべく、中央本部との連携を深めていきたい。

指令の系統別意見交換会の開催

松本 憲亮(大阪地本)
●駅の運転取り扱いが見直されているが、臨時列車の運転時刻変更、着発線変更などの情報が入っていない。運転計画の伝達方法や駅の業務の在り方など、しっかりと検証していただきたい。

●駅務のキャリアプランを示

一部動員は青女不参加に

松井 海斗(京都地本)
●新規採用者加入行動では、JR西労組DVDに、青女活動を取り上げてほしい。引き続きわかりやすいDVDの作成をお願いしたい。

●組合役員は活動に購入券を使用することが多く、購入券の増配布を求め。

分会青女は必要なのか

中村 誠之(神戸地本)
●分会長の若返りで、分会青女の必要性が薄れてきている。一部の分会青女役員に負担が偏っている。基本組織に青女担当を設けるほうが良いのでは。

青女年齢の引き上げを

栗屋 侑大(広島地本)
●労働力不足少子化に伴う機械化によって、青女組合員が減少していく。青女年齢の引き上げを検討していただきたい。

身近に感じた政治の先生

阿瀬 亮(福知山地本)
●新規採用者のオルグに向けて、ユニオンスクールなど事前勉強し自信を持って取り組むた。

●技術フォーラムと女性フォーラムを併設して取り組み、男性の育児参加への意識を高めることができた。

●今回の定期委員会では、議員団会議の先生に、自らの政策活動や政治と労働組合の関わりについてお話いただき、身近に感じた。

勇気を出して発言すれば何かが変わる

JR西労組新倉中央青年女性委員長挨拶(要旨)

【はじめに】
一人ひとりの声を可能な限り形にするのがJR西労組運動です。そんな雰囲気を見なさんと醸成してきたのが、私の委員長生活でした。3年間で支え、応援いただいた組合員の皆さんに、感謝を申し上げます。

【安全について】
あやや死亡労災という事象が後を絶ちません。原因は、勘違い、思い込みなど、防げたであろう事由ばかりです。背景に

【春闘と労働協約改訂交渉について】
この6年間で5,450円ものベアを積み上げてきました。賃金実態調査のご協力に改めて感謝申し上げます。労働協約については、短時間勤務制度の適用対象者が、満

【政治と労働組合の関わりについて】
4月の統地方選挙では、現職の組合員2名を含め、7名が全員当選。参院選でも、支援した議員2名が当選。皆さんの熱いご支援に感謝します。JR西日本という公共交通機関の必要性を十分に理解し、活動いただける議員を議

【青女活動について】
青女の活動目的は「仲間づくり」が主です。「明るく楽しい」が主です。「明るく楽しい」が主です。

【組織について】
今年の新規採用者への加入行動のおかげで、721名の方々にJR西労組に加入いただきました。各地での歓迎会の開催も含め、ありがとうございました。

【最後に】
私は、3年間の活動を通じて、JR西労組の青年女性委員会が日本一だと感じました。JR西労組は、私たち青年女性委員会を大切に守り、育ててくれます。感謝と誇りを胸に一人ひとりが主役のJR西労組運動を、これからも全員で積み重ねていくことがありませんか。

【誰かがイキイキと働き続ける環境を求めて】
宮前 真央(神戸地本)
●LGRについて、会社でも研修が実施された。JR西日本管内では、6つの自治体がパートナシップ制度を認められているが、当社では認められていない。誰もがイキイキと働き続ける環境に向けて制度導入を求めたい。



線にも被害があったが、何の情報もない。会社には、前広な情報発信をお願いしたい。ボランティアを実施するのであれば金沢が率先して支援していく。